

### 新年のご挨拶

あけましておめでとうございます！光線医療センターの2026年 午年の幕開けです！

新たに、産婦人科学講座の牛若 昂志(たかし)講師が委員に就任していただき、新体制となりました。2026年も、どうぞ宜しくお願い申し上げます！

### 光線医療センターの委員に産婦人科学講座の牛若 昂志講師が御就任

このたび、光線医療センターの委員に加えていただくことになりました、高知大学産科婦人科学講座の牛若昂志と申します。井上啓史センター長をはじめ、センターの皆様にご心より御礼申し上げます。私は2009年に高知大学を卒業し、2011年に同大学産科婦人科学講座に入局いたしました。産婦人科の中でも婦人科腫瘍領域を専門としており、2019年から2021年には鹿児島大学に国内留学し、婦人科悪性腫瘍の修練を積みました。特に子宮がんに対する\*\*ICG(インドシアニングリーン)蛍光法を用いたセンチネルリンパ節ナビゲーションサージェリー(SNNS)\*\*の臨床研究に携わり、この経験を生かして、来年度の保険収載に先駆けて当科でも導入を準備しております。

このたび光線医療センターの委員としてお声がけいただくきっかけとなったのは、卵巣がんにおける播種を可視化するALA蛍光診断(PDD)の臨床試験「ASTROPIC試験(OVAJ-301)」に、13施設の一つとして参加する機会をいただいたことです。本試験の主任研究者である田畑教授とは以前よりご縁がありましたが、ALA-PDD研究の第一人者である井上センター長のご業績により、高知大学が本試験の実施施設に選定されました。このような貴重な機会をいただけたことに深く感謝申し上げます。

卵巣がんは腹膜播種を伴って発症することが多く、播種が存在しても「完全切除(R0)」が予後を左右する特殊ながん腫です。術前化学療法後などでは、肉眼で確認できない微小病変が遺残し、それが再発の原因となることが知られています。ALA-PDDは、肉眼では見逃されがちな播種をより確実に診断・摘出することで、卵巣がん患者の根治をめざす重要な研究です。

光線医療センターの先生方のご指導を賜りながら、婦人科領域における光線医療の臨床応用と研究発展に貢献できるよう、微力ながら尽力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

〈高知大学 婦人科腫瘍グループ @鹿児島仙巖園〉



## 光線医療 関連論文

下記の光線医療関連の論文が発刊されました。

[筆頭著者] 重久 立

大きく変わる膀胱癌の薬物療法—筋層非浸潤性膀胱癌から転移性膀胱癌まで—BCG-unresponsiveに対する新規治療法の開発状況.

Jpn J Cancer Chemother 53(1):10–15. January, 2026

光線医療センター ニュースレター

2026年 1月 26日 発行

発行責任者・編集責任者：井上 啓史

(高知大学医学部 光線医療センター センター長)

文責：福原 秀雄

<https://www.kochi-u.ac.jp/kms/CPDM/index.html>